

「知事とのフレッシュトーク」（平成26年9月9日実施）の概要について

「知事とのフレッシュトーク」は、知事が高校生の皆さんと県の未来について意見交換を行うものです。

平成26年9月9日（火）につがる市の県立木造高等学校において実施した、「知事とのフレッシュトーク」の概要をお知らせします。

青森県立木造高等学校の概要

明治35年、青森県立第四中学校として創立。

昭和2年、青森県立木造中学校として開校。

昭和23年、学制改革により青森県立木造高等学校となる。

平成15年、普通科・商業科を総合学科へ改編。

平成19年、青森県立深浦高等学校が本校深浦校舎となる。

平成19年、創立80周年を迎える。

大学進学に向けた学習の他、公務員や民間就職など、個々の進路目標に沿った幅広い学習ができる、「進学を目指す総合学科」である。部活動も盛んであり、「文武両道」を目標に、三年間の高校生活を学習と部活動に集中できる環境が整えられている。

◆開催◆

【校長歓迎のことば】

三村知事、御多忙の中、ようこそ木造高校へお越しくございました。生徒、教職員を代表して、心から歓迎いたしますと共に厚く感謝申し上げます。

この「知事とのフレッシュトーク」は、高校生と知事との意見交換をとおして、青森県について高校生に身近に感じてもらうことが大きなねらいです。それと共に高校生の新鮮な意見や発想、あるいは青森県に期待していることなどを知事に聞いていただき、開かれた青森県を一層推進することがもうひとつの大きなねらいだと思っております。本日は、本校2年生が4月から総合的な学習の時間の中で青森県のことを調べ、考えたことを代表6名の生徒が質問や意見として述べます。三村知事との活発なトークになることを期待しております。

なお、体育館の後ろの方には、2年生が青森県のことを調べて作成した壁新聞が掲示されております。また、10月21日にはつがる市の福島市長と1、2年生とのフレッシュトークを計画しています。本日はお忙しい中、福島つがる市長、そして盛・元木造町長もお見えです。

前に座っている2年生はもちろん、後ろの方にいる3年生、1年生も三村知事の気さくな人柄に触れ、青森県を身近なものに感じてもらえんと思います。それでは三村知事よろしく願いいたします。



【知事あいさつ】

こんにちは。青森の未来は、ここにありという思いで来ました。自分は高校生の時に何を考えていたんだろうと今振り返ると、将来、自分はどう生きていこうかなということをいよいよ本気で考えていた時期でした。私は、知事という仕事、その前に町長という仕事もしました。その時に本当にしみじみ思ったことは、小学生、中学生、高校生の時期は一生懸命勉強しなければいけない、君たちの年代こそが未来を作っていくんだということです。高校生たちが未来の青森県、未来の日本や世界というものに、どういうふうに関わっていくのか、どういうふうに創造していくのか、そのことがとても大事なんだと改めて思うようになりました。是非、皆さん、世の中のことに色々興味を持ってください。幸い2年生が作成した新聞を見ると、いろんなことに興味を持ってくれていて、嬉しく思いました。

未来はここから始まります。未来を変えていく、未来に向かって進むのは、1人1人の皆です。木造高校の君たちです。本日は、90分で6人の方とお話させていただきますので、どうぞ皆で聞いてください。よろしくお願いします。

【学校紹介】

説明者（3年、女子2名）

木造高校の歴史ですが、明治35年に青森県立第四中学校として創立し、その後昭和23年に木造高校となり、現在創立87年目を迎える伝統のある学校です。木造高校は文武両道と生徒一人一人の進路目標実現を掲げている、夢実現のための総合学科高校です。部活動では相撲部が有名です。元小結の舞の海関や、元前頭の寶千山関を輩出しています。後輩もこれに続けと頑張っています。



夢を実現させる総合学科の魅力は3つあります。1つ目は1年次の産業社会と人間という授業です。ここでは自分の将来の生き方や在り方について、様々な体験を通して考えます。2つ目は産業社会と人間の授業をとおして、自分の進みたい道や学びたい学問を見極め、自分で科目を選択し、各系列毎の学習を進めて夢の実現を目指すことが可能なことです。ちなみに私は、流通ビジネス系列に所属しています。3つ目は総合的な学習の時間です。各年次毎にテーマを決め、社会的問題を発見したり、課題を解決するための探究的学習に取り組んでいます。

1年次では、「自分たちがつがる市のPR大使だったらつがる市の魅力をどのように伝えますか」といった内容について、津軽の宝のパンフレットなどをもとにグループで考え、模造紙大のリーフレットを作成しました。その後PR大使となって、クラス内でつがる市の魅力をアピールすると共に、木高祭で展示しました。

2年次は「チャンス、チャレンジ、チェンジ青森。2030年、皆が30歳を過ぎた頃の青森県の未来を考える」をテーマに、探究学習を展開してきました。研究の素材として青森県基本計画「未来を変える挑戦」のダイジェスト版をいただき、活用しました。5月には青森県の人口減少に関する課題について県庁企画調整課の方に講演していただきまし

た。その後多岐にわたる課題や、興味のある分野についてグループで話し合い、テーマをしぼり研究し、壁新聞にまとめ、クラス内で発表会を行い、1年次と同様に木高祭で展示しました。その新聞が、発表者の机の前と体育館の壁に貼られているものです。

3年次については、特徴的な取り組みについてご紹介します。私が所属している流通ビジネス系列の8名がビジネス実践という科目で、つがる市の魅力をもっと発掘し発信することはできないかと考え、ドリカム人づくり推進事業の一環として活動しています。「駅からハイキング」のテーマは、津軽弁ガイドの高校生とじっくり木造探検です。メンバーの中で地元の木造出身は私しかいないため、5月から木造の町歩きを何度もしてコースを選定しました。歩くことで分かる木造に住む人の温かさや、新たな魅力の発見をしてもらえるよう、ガイドをさせていただきます。時間がございましたら是非ご参加していただければと思います。

さらにつがる市といたらこれ、と言ってもらえるようなグルメを考案しています。これは「駅からハイキング」の参加者にも試食していただく予定です。多くの方から御意見をいただき、つがる市内の関係者に提案していきたいと思っています。また、私達の取り組みは、フリーペーパー「つがる本(ぼん)11月号」にも掲載していただくと共に、今後はフェイスブックなどのSNSサイトでも発信していきたいと考えております。

本日のフレッシュトークは、2年次が総合的な学習の時間で学習してきた内容についてです。どうぞよろしくお願いいたします。以上で簡単ではございますが、学校紹介を終わります。ありがとうございました。

知事

ありがとうございました。理路整然としっかりしていて、すごいです。将来の夢は何ですか。

説明者

ウェディングプランナーです。

知事

青森県の最大の課題は、なかなか結婚が進まないことです。よろしくお願いします。県でも婚活事業を一生懸命やっていますが、なかなか大変です。

【意見交換】

司会（2年、女子）

今回のフレッシュトークの全体テーマは、私たち2年次生が4月から青森県の現状を把握し、青森県の課題について考えた内容、「青森県の未来を変える挑戦」をテーマにしております。ここに着席している6名が課題として考えた内容に関して、知事とともに青森県の未来についてトークしていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

まずは、「青森県の福祉について」です。

発言者 1（2 年、男子）

自分は、青森県の福祉について調べました。今、青森県の問題の一つとして少子化が取り上げられています。これを止めるには、20代から30代の若い人の力が必要となっています。ですが、今青森県では貴重な宝である若者が都会の方へ出ていってしまうということが問題となっています。この状況を打開するために、福祉の充実が欠かせないものとなっています。

つまり都会へ出ていってしまった若者が、再び戻ってきたくなるような青森県にならないと思います。提案なのですが、子供を育てたりするための費用、つまり医療費や養育費について、1人目は1割、2人目からは2割などと県で負担するような制度があれば、子供が育てやすくなり、青森県に帰ってきたくなると考えました。財政的にも厳しいことは分かりますが、このようなことは可能でしょうか。

知事

財政的に厳しいことを聞いてくれて、ありがとうございます。人口減少社会は、ものすごく大きな課題です。実は青森県だけではなく、全国の課題です。日本中で人口減少が進んでいます。若い人がどんどん都会に出て行って戻ってこないというのが原因の一つです。

自分が知事になって最初に一生懸命考えたことは、やはり雇用、産業雇用政策だろうということでした。なぜかという、県外に進学しても県内に進学しても、就職する時に青森県内には働ける企業が多くはなく、なかなかいい形でマッチングしないということが現実としてあるからです。

高校生の就職希望者について言えば、企業誘致や増設などをこれまで300社近く行ってきて、雇用対策事業に積極的に取り組んできたため、状況は改善されてきました。ただ、皆のように大学に進学してから県内就職を希望する人については、就職希望者と企業のマッチングという点で非常に厳しいものを県として感じています。

だからこそますます産業雇用対策分野で、いろいろ新しいジャンルを増やしていこうと思っています。

今、県で一番力を入れているのは、攻めの農林水産業です。この分野で6次産業化ということもやっています。この他にも、もっと新しい産業を青森から起こしていこうという思いで、ライフ関連産業として医療機器などのものづくり産業やプリテオグリカンなどの地域資源や新素材をうまく使って、新しい成長産業を創出する取組を始めています。

では、将来は何の仕事をしてみたいか、どこに行ってみたいかを何人かに聞いてみます。

生徒 1

私は北海道の教育大学を受け、北海道で働きたいと思っています。

知事

そうですね。人生にかける思い、いろいろな人と出会って仕事をしてみたい、だからいろいろなところに行ってみたいという思いを感じますね。



生徒2

私は青森県で看護師になって働きたいと思っています。

知事

どうもありがとうございます。青森県立保健大学に入学しても、県内に残ってくれるのは36%しかいません。最初は皆が県内に就職すると言っているのですが、最終的には県外に就職してしまいます。まずは受験に合格しないといけないですし、国家試験にも合格しなければいけませんので、勉強をがんばってください。

このように、今聞いてみただけでも、2人に1人は県外を希望するということで、皆いろいろな所で働いてみたいと思っていることがわかりました。そこで、今日来ている県庁職員の中で一番若い職員に、青森に帰ってきた理由、青森のどういうところが魅力だと思うか、あるいはどうして都会に就職しなかったのかを聞いてみます。

企画政策部広報広聴課職員

私は県外の大学に進学しましたが、進学した時は、青森に戻ってこようとはあまり考えていませんでした。特に、将来どこで働こうかということをあまり考えていなかったというのが本当のところです。ただ、進学して仙台に行き、全国あちこちから集まっている友達と話をしている中で、自分の地元をすごく好きな友達が多いと感じました。そういう友達の話を聞いているうちに、私もすごく郷土愛が喚起され、帰省するたびに、居心地の良さを感じるようになりました。それで青森に帰ってきたいと思い始め、実際に帰ってきました。

知事

ふるさとをととても好きになって、青森に帰ってきてくれたということですね。

産業雇用、働く場を増やすことに一生懸命取り組んできましたが、ふるさと、青森県の人財育成の中で、何が一番大事なのかを考え、「あおもりを愛する人づくり戦略」という人財育成戦略を策定しました。チャレンジ精神あふれる人財が、ふるさと青森を愛し、青森の元気をつくっていく、そういった人づくり施策を進めています。ふるさとを愛する人たちがたくさん増えることで、日本中どこに行っても、海外のどこに行っても、Uターン、Jターンなどで戻ってきてくれる人を増やそうということを行ってきました。

そしてもう一つ、そのためには青森に残ってくれる人たち、あるいは青森で子どもを育てたいという人たちのための施策を行っていました。子どもの医療費助成や高等学校就学支援資金などがあります。担当課から発言をお願いします。

健康福祉部こどもみらい課職員

県では「わくわくあおもり子育てプラン」という計画を策定して、各種施策に取り組んでいるところです。働きながら子どもを育てるための仕事と子育ての両立支援や、安心して子どもを産み育てるための家庭での子育て支援など、施策の目標を定めて実施しているところです。こうした目標を達成するために、今後とも様々な施策を一生懸命努力して実施していきたいと考えております。

知事

どのように支援するのが一番いいのかを考え、一生懸命取り組んでくれています。例えば、高等学校の支援金についても、細かく支援制度を作っています。税金の使い方として、比較的公平に感じてもらえるように考えてきました。

しかし、青森県の人口減少の一番の問題は、人口の社会動態における転出超過は少なくなっていますが、死亡数から出生数を引いた自然減が増えているということです。婚姻率と出産率がすごく下がっていることが原因です。また、若い女性の働き場所として、保育士の資格を持った人や、看護師の資格を持った人が、大都市の方へスカウトされていくということもあります。そういう人たちが青森に帰って来て、結婚してくれて、もう一度青森の病院に勤めることができるよう、Uターン戦略等を一生懸命進めてきました。

人口減少に対応する仕組みというのは、お金の支援だけでは足りない部分があるので、帰って来たい青森、皆で暮らしたい青森、仕事の方がきちんとあり、支援制度もいろいろあるという状態を作っていきたいと思っています。そのためには君たちからも提案をいただいて、よりよい制度を作っていきたいと思います。よろしくお願いします。ところで、将来の夢は何ですか。

発言者 1

将来は地元に戻って来て、地元の町おこし産業に関わっていきたいと思っています。

知事

町おこしする人が多いと、いろいろな仕事を作ってくれて、地域が元気になります。よろしくお願いします。そのためには、しっかりと勉強してきてください。

司会

他に聞きたいことはありますか。

発言者 1

先ほど郷土愛の話がでましたが、自分も今、地域の子ども会連合会の初代会長として頑張っています。高校に入るまでは自分も都会にあこがれていたのですが、子供たちが主体となって活動している中で、青森の魅力のすごさに気がつきました。ですが自分の地元の鰯ヶ沢町は、2040年には6千人まで人口が減少すると言われているので、Iターンとかが増えるようにもっと広報、告知して欲しいと思います。

知事

Uターン、Iターン、Jターン、青森は、いろいろな形で増えています。ひとつの例が農業者平均年齢で、青森は62歳です。高いと思うかもしれませんが、他県は66～67歳です。統計的にみて4歳から5歳違うというのは、すごいことです。ゆったりと悠々と生きられると感じて青森に戻ってきて就農してくれている方が増えています。

県庁の「まるごとあおもり情報発信チーム」が、首都圏に向けて、青森の良さをものすごく情報発信してくれています。青森の良さということを実は県外に出てから知る人が多

いみたいです。だから、青森の農林水産業はすごく元気になりつつあります。そういうわけで子ども会活動を通じて、是非若い人たちにも「青森っていいな」ということを広めてください。よろしくお願いします。

司会

次の内容は「青森県のスポーツ振興について」です。お願いします。

発言者2（2年、男子）

青森県の未来を変えるためには、スポーツ振興の充実を図ることが大切ではないかと考えました。私は、先々週台湾で行われた世界ジュニア相撲選手権に、ジュニアの日本代表として団体戦に出場しました。団体の中堅で出場し、全勝することができ、日本の優勝に貢献することができ、とても大きい経験をすることができました。

そこで、かつて青森県は相撲王国と呼ばれるほど相撲が盛んでしたが、今では相撲人口も減少してしまい、人々に興味を持ってもらえない状況にあります。また、木造高校の相撲部員も今は3人と、これも少ないです。昔はたくさんいた相撲人口も今では少なくなってきて、今後相撲をやっていく生徒や児童は少なくなってしまうのではないかと、とても心配です。相撲に限らず、青森県のスポーツの競技人口が減ってしまえば、青森県が今まで残してきたスポーツの伝統が途切れていくと思います。相撲をはじめとするスポーツ振興の取組や対策があれば教えてください。

知事

優勝おめでとう。全勝とは、すごい。

やはり、体を動かすことは大事です。県民1人1種目のスポーツをしよう、あるいは体を動かそうということを進めています。その一方で、青森県も今度国体を誘致したいと思っているので、青森のスポーツからトップアスリートがどんどん出て欲しいという気持ちがあります。

ところで相撲の状況を考えると、今はモンゴルなどの外国人力士が台頭してきていて、日本の相撲が少し淋しくなっていると思っています。

スポーツの振興は、我々青森県としても重要なテーマです。全国大会で活躍できる選手の育成をしようとトップアスリートの方々が集まってくれて、「あおもりアスリートネットワーク」を設立し、一流選手による一流の指導などもスタートしています。

その一方で皆でスポーツしよう、体を動かそうという運動をしています。「総合型地域スポーツクラブ」を県内各地に育成したり、「スポーツ選手基礎力向上キャンプ」なども実施しました。強化選手の対策事業や「アスリート発掘事業」なども行っていて、小学生を対象にトップアスリートになるための資質向上について取り組んでいます。それでは、スポーツ振興を所管している教育委員会から、学力だけでなくスポーツ全般も含めて、少し話



をしてもらいます。

教育委員会学校教育課職員

やはりスポーツのことを考えたときに、指導者が非常に大切です。今、スポーツを一生懸命やってくれる人に、将来指導者になっていただいて、青森県に帰って来て、そして子どもを育てていく、そういうことを、たくさんの方が思ってくださいれば、本当にいいなと思います。指導者になるには教員になってもいいですし、例えば教員でなくても地元で仕事のかたわら地域のクラブチームのお手伝いをしてくれたり、そういう意味で大人が子どもを皆で育てていく、そういう社会を作ることが、非常に大切だと思っています。

ですから今、皆さんは、勉強を一生懸命やることも大切ですし、部活動を一生懸命やることもとても大切です。例えば部活でも、面倒だな、きついなと思いつつやっているのでなくて、このとおりにやればどうなるのか、何をすればもっとうまくなるのか、体を鍛えられるのか、そういうことを考えることも大切ですし、どうしたらケガをしないようなプレイができるんだろうということも一生懸命考えてやると、自分の技術も向上するし、またそういう経験が大人になって小さい子どもを見るときに、いい経験になると思います。一生懸命勉強してどんな場面でもいいので、地域の子どもたちを支えてくれる人財になってほしいと思っています。

知事

答えは、「君」にありました。要するにスポーツを一生懸命やっている「君」が、次の世代、子どもたちも育ててくれたら最高だということを教育委員会としても、知事としても思っています。青森県にはトップアスリートが、なかなか帰って来てくれません。確かに仕事の方が先生などに限られてしましますが、君たちにはトップアスリートを目指してもらい、トップアスリートになった人が青森県に帰って来て、子どもたちを育ててくれたら最高だと思っていました。将来の夢は何でしょうか。

発言者2

将来は高校の教員になって、青森県に戻ってきて、青森県の相撲人口を広げていけたらと思います。

知事

ありがとう。その志をしっかりと受け止めておきます。トップレベルのアスリートとしての才能もあると思いますので、試験勉強を頑張って、将来の夢に向かって進んでください。よろしくお願いします。

司会

3番目の内容は、「青森県の医療体制について」です。お願いします。

発言者3（2年、女子）

私は、青森県の医療に関して質問があります。本県では医師不足を解消するため、医療

現場で働くことを希望している人に対する優遇制度があると聞きますが、その優遇制度には具体的にどのようなものがあるのでしょうか。

次に、現在青森県は病院の統合化が進んでいます。短命県返上を目指している青森県にとって、地域医療の果たす役割は重要なものになってくると思います。そこで知事は、今後地域医療がどうなるべきだとお考えですか。



知事

非常にいい質問です。我々にとって、最大の課題だと思っています。青森の人は、お酒を飲みすぎる、タバコも吸いすぎる、しょっぱいものも食べすぎる、健診には行かないということで、一人一人が若いうちから健康にもっと気を付けようということを言っています。突然、生活習慣病などになってしまうことが多いのが、青森県の状況です。

短命県返上のために一番大事なのは、自分自身が健康に気をつけようと思うこと、そして、自分たちでお医者さんを育てることです。そこで、「良医を育むグランドデザイン」というものを作りました。医学部にはどこでも奨学金などがありますが、実験など自分で負担しなければならない費用があるので、応援してあげないといけません。だから青森県では、市町村の力を借りて、修学資金制度を作りました。おかげで、医学部に行こうという人でこの制度を利用する人が増えています。この制度は、卒業後、青森県内の医療機関で一定の期間働くことを条件にしていますので、制度を利用している人たちが卒業する頃には、お医者さんが県内に増えていきます。

また、県内出身者の医学部の合格者数も平成19年までは30～40名しかいませんでした。そこで、教育委員会では合格者数を増やすために、予備校の先生の講義を、高校の先生方に見てもらい、受験勉強のテクニックを学んでももらいました。そうしたら、次の年には、合格者が72名に倍増しました。平成20年に合格した生徒が今年大学を卒業しますので、これからはどんどんお医者さんが増えていきます。ただ、別の問題があります。地元弘前大学の卒業生は何とか地元に残りますが、東大、京大、大阪大など、全国の超難関大学に進学した人に帰って来てもらえるかどうかが大変です。青森に戻って来て一緒に医療をやろうということで、スカウトに飛び歩いています。では、私と一緒に医師確保、医師定着に取り組んだ西北地域県民局長に補足してもらいます。

西北地域県民局長

医学部合格者のことと、医療体制のことについてお話させていただきます。

今お話いただいた中に、つがる市立成人病センターが診療所になったり、鶴田病院が鶴田診療所になったり、病院が統廃合されるのではないかとということがありました。でも、全国の医師数は伸びていて、青森県も伸びている。お医者さんが増えているのに何で医師不足なんだろうと不思議に思いませんか。実は、日本全国で医師不足です。京都が一番お

医者さんが多いんですが、京都でも医師不足だと言われています。それはなぜか。理由は、医療がどんどん高度化してきていて、昔だったらあきらめざるをえないような病気でも、専門のドクターが5～6人、そして高度な医療機器を備えていれば、何とか命を助けられるというふうに変わってきたということなんです。もう一つは、高齢化が進んできて、ちょっと血圧が高い、ちょっと血糖値が高いと言われて、毎月病院に行っているような人たちが増えていますので、人口はそんなに増えなくても、病院にかかる人が増えてきたということなんです。そのため、どこの自治体も皆、医師不足なんです。皆の病院で同じようにお医者さんをたくさん抱えて、年に何十人しか手術しないような機器も揃えてということをやっていると、どこまでも医師不足ですし、病院の医療機器を買うのにも何十億とかかかったりするので、とても大変です。だから昔から、ここの病院はすごく高度な医療をする病院、この病院はお年寄りが慢性疾患でいつも気軽に来てくれる病院、そういう役割分担をして、何かあったらすぐ大きい病院を紹介するとか、大きい病院で手術が終わったら、地元の診療所に紹介するとか、そういったことが大事だと言われてきました。ただ、そう言うと、うちの病院を壊したくない、うちの病院こそ大きくして、他のところを小さくすればいい、というようなことでどこの地域もなかなかうまくいかなかったということがあります。

しかし、ここの2市4町の西北五地域は、皆さんご存知のとおり、医師不足の県内でも一番医師不足が深刻でした。そういった意味で関係する市長さん、町長さんが、やろうと結束してくれました。手術や入院が必要な時は、大きい病院に行く。でも普段、お年寄りが月1回、2ヶ月に1回の検査をする時は、地域の身近な医療機関で診てもらいましょうと。また、もう少しすると、病院に通えないようなお年寄りも増えてきます。あるいは寝たきりになって、医療が必要であるという人達のために、在宅医療や訪問診療というのも今後どんどん増えてきます。ですから、介護の関係でも病院でドクターにメスや鉗子を渡すような看護師さんもいれば、訪問看護ステーションの場で、地域のお宅を訪問して看護する、そういうふうには医療が今どんどん、超高度化と身近な部分に分かれていきます。つがる市でも、求められている部分は、まさにそういうところだと思います。3月に市民診療所がオープンして、4月につがる総合病院がオープンしましたが、ある意味、その再編のスタートについたという状況で、各市長さん、知事も先頭に立って、お医者さんの確保にいろいろと努力をしています。それがこれから西北五地域に行けば、病院に行っても、診療所に行っても、非常に働きやすいということになって、どんどんお医者さんが定着し、地域の医療がより充実していくというふうに考えています。そういうことを目指して、医療の再編をやってきました。

知事

まずは、医師の数を絶対に増やさなければということと、仕組み、システムを整えるということで、皆で中核病院を作って、そこにお医者さんを集中し、サテライト病院にお医者さんたちがローテーションで行くということを進めています。

その一方で、青森県も、日本中がそうですが、これからは高齢者の方を地域で支えていこうという仕組みが始まっています。訪問医療が、平成30年から義務的に始まります。在宅の方を助けていこうという仕組みをどんどん進めていくためには、実は、お医者さん

だけではなく、看護師や放射線技師などの、いわゆる医療関連の仕事が、たくさん必要になってきます。情報をたくさん提供していきますので、皆さんが進学の際に参考にしてくれれば嬉しいです。そういうわけで、医師を増やしながら、医師が働きやすい仕組みを作り、医師を支えるスタッフも整えてと、青森県は今、そういう段階に入ってきました。まだなかなか厳しい状況ですが、これからも頑張ります。ところで、将来の夢はなんですか。

発言者 3

看護師です。

知事

青森で看護師さんになってくれると嬉しいです。

司会

他に何かありますか。



発言者 3

私の住んでいるところも、医療の再編で、最近診療所になっていますが、お年寄りの方だと大きい病院は、設備は整っているけれども、やっぱり行きづらくなると思います。

知事

国としても、青森県としても、地域医療をすごく大事にしたいと思っています。さっき訪問医療の話をしたんですが、ヘルスプロモーションカーという、機械がたくさんついていて、レントゲン撮影や超音波検査ができる車で、病院が遠くて、あまり行けないという人たちをこちらから診に行くという仕組みを整えつつあります。だからこれからは、こちらが診るという体制を整えていきたいと思っています。応援してください。ではしっかりと勉強を頑張ってください。

司会

4 番目の内容は、「これからの県内の祭りや伝統芸能について」です。お願いします。

発表者 4（2 年、男子）

私は、医療とか福祉とかの切り口ではなくて、祭りや伝統芸能という切り口で、今回青森県のことを調べてきました。そして課題も見つけました。

私は、毎年、立佞武多にねぶたづくりや囃子方として参加しています。今年は、つがる市で行われている馬市まつりのために、木造高校の馬ねぶたを制作しました。初めての自分たちの制作ということで、まだ慣れている人も少なく、このテーブルに乗る位のサイズですが、2ヶ月の時間を費やしました。

私が立佞武多に参加して感じたことは、同年代の人が少ないということです。県内の様々な祭りは、観光客を青森県に呼ぶことはもちろんですが、少子化や高齢化が進む中で、郷

土との絆を強めるためにも重要な役割を果たすと思います。そこで提案ですが、地域で仕事を退職し、時間に余裕のあるねぶたを作れる方、また、囃子のできる方を小学校などの学校に派遣し、地域の伝統芸能や祭りに触れて、体験する機会を作ればいいと思います。そうすることで祭りに対する関心を持ってもらえ、地域の方々とのつながりも作れるのではないかと考えました。知事はこのことについて、どのようにお考えですか。

知事

非常にいい切り口から話をもらったと思っています。若さは力、祭りは地域の命と喜びです。祭りがあって、地域がまとまるということは、すごく大事だと思います。では、どういう祭りが好きか、生徒の皆さんにアンケート調査をしたいと思います。何年生ですか。

生徒 1

1 年生です。

知事

1 年生ですか。どういう祭りが好きで、祭りに参加していますか。

生徒 1

参加はしていませんが、立佞武多が好きです。

知事

ありがとう。隣の人はどうですか。

生徒 2

私も参加はしていませんが、立佞武多が好きです。

生徒 3

私は、青森のねぶたに参加しています。

生徒 4

祭りと言えば立佞武多です。

知事

そうということで、緊急に祭りアンケートを実施しました。本当に青森県の夏は、すごいです。あちこちの祭りに呼ばれるので、8月の1週は、1日の昼に八戸三社大祭に行き、夜は弘前ねぶたに行って、次の日は青森ねぶた、3日は休ませてもらって、4日に五所川原立佞武多、5日は休んで、6日にまた青森ねぶたに出るという感じです。いろんなお祭りがあって、青森県というのはすごく楽しいと思います。でも、どの地域でも言われることは、ねぶたの場合、囃子方もそうですが、曳き手そのものが足りなくなっているし、い



ろんな地域でどういうふうにお祭りを守っていくかということが、大きな課題になっています。

そこで県としては、まず、子供たちの民俗芸能大会をやったり、その一方で、例えば地域伝統芸能を保存していくために、記録映像の保存、あるいは継承者の育成指導ということを進めています。本当に消えそうになっている祭りは、きちんと支援措置を作ったりしていますが、人口減少社会の中で、青森は町内会の人々の力というのが、意外とまだ残っているので、その人たちに頑張ってもらって、それぞれの郷土芸能をなくさないようにしていこうと思っています。これからの実技指導とか、郷土芸能、伝統芸能、こういったもの等を大事にしていくということの中で、大きな祭りだけではなく、小さい祭りも残していこうと思います。では、県庁ねぶたの囃子方の関係者が来ていますので、少し話をしてもらいます。

企画政策部広報広聴課職員

私は、青森市の出身ではありませんが、県庁に勤めるようになってから、ねぶたの魅力に惹かれ、子供と一緒に囃子方に参加させてもらっています。なかなか囃子の練習にも参加できないのですが、ねぶたの行きと帰りで囃子が違ったりして、奥深いものだなと思っています。祭りには、やはり参加してみないと分からない良さというがあるので、皆さんも機会がありましたら、是非地元のお祭りに参加してみたらいかがでしょうか。

知事

見て面白いと思った時に参加しそうな人たちを誘うというのが大事だと思います。小さなお祭り等は、県でも市町村でも保護するということを一生懸命やっています。ということで、あなたの将来の夢は何ですか。

発言者 4

まだ何をやりたいかというのはきちんと決まっていますが、とりあえずは、きちんと就職して、地元に残り、ねぶたを作ったり、地元の祭りに貢献できればいいかなと思っています。

知事

ありがとう。人がわっと笑う、びっくりするようなアイデアで頑張ってください。

発言者 4

青森県の伝統芸能や祭りに対する取組などが分かり、本当にとても貴重な体験になりました。ありがとうございました。

司会

次に5番目の内容は、「青森県の子育て支援について」です。お願いします。

発言者5（2年、男子）

私は青森県の未来を変えるためには、子育て支援を強化することが必要だと思いました。日本の合計特殊出生率は1.41、青森県は1.38となっています。そして、全国の夫婦が理想と思う子供の数は2.42ですが、夫婦が実際に持つ子供の数は1.96と2人に達していません。実際とは違うこの差の原因は何かを考えました。近年、様々な事情で共働きの家庭が増えていますが、両親共働きをするためには、子どもを預けなければなりません。預かり保育や、夜間保育などがありますが、それを利用しようとすると、さらに家計を圧迫します。すると、子どもを預けるところがなく、共働きも辞めざるを得ない母親もいると考えられます。これでは安心して子どもを産み、育てることが難しいのではないかと思います。また、これが少子化を加速させる原因にもなっているのではないかと思います。私は青森県の公益施設を増やし、子育てしやすい環境を作ることが必要だと思いますが、知事はどのようにお考えでしょうか。

知事

保育施設に関しては、青森県の場合、待機しなくても保育園に入れること、延長保育、夜間保育というようなことなど、比較的市町村がしっかりやってくれています。

子育て支援の課題というよりも、青森県の場合、ものすごく悩ましいのが結婚する人が減っていること、初婚年齢が男女とも上がってきていることです。また、一生結婚しないという方も増えています。ということは、子どもが産まれないということになります。

だから社会の在り方として、結婚することの意味や、子どもを産み育てることの意味とか、そういうことをもっと皆でよく話すことが大事になっていると思っています。今日は、女性もたくさんいますが、君たちに産めよ増やせよと言っては、いけないと思っています。人生観というのか、結婚したい、産みたい、そういう気持ちを決めるのは、女性だと思います。だから、女性が社会できちんと尊重されたり、働く場面においてもワークシェアしたり、きちんと子どもを育てながら、働けることが大事だと思います。問題なのは、家事や育児をしない男性が、まだいるということです。女性や子どもを大事だと皆で考えるような時代にならないと、特に男性がそういうことに気が付かないと駄目だと個人的には思っています。県でも家事をする男子、育児をする男子を積極的にアピールしています。男性がもっと子育てとか結婚について、真剣に考えて欲しいというのが知事としての思いです。そういうわけで、家庭生活が非常にうまくいっている先輩から何かアドバイスがあれば。

企画政策部広報広聴課長

私のところは、子供が2人います。知事がたくさん説明をしましたがけれども、女性が子どもを育てやすい環境というのは、ポイントが2つあります。1つには女性が働く職場の理解が非常に大事です。女性が育児のためにお休みをしたり、育児休業をしたいといった時に、嫌な顔をしないできちんと休ませてくれる。そういう会社の理解が必要だということです。それからもう1つは、パートナーの男性の理解も非常に大事です。家事をやる、育児をする、そういう男性の協力がないと、女性は気持ちよく子育てができません。会社の理解、それから男性自身の意志、これが大事です。それから男の人の働き過ぎというの

も問題になっています。男の人が会社であまりにも働き過ぎることによって、家事が出来ない、育児が出来ない。そういうことも今問題になっています。ですから、そこもまた会社の上の人が理解して、ワークライフバランス、生活と仕事のバランスが取れるような、そういう会社経営をしてくれるように、県からもいろいろ民間の会社に働きかけています。

知事

私は一人暮らしなので、洗濯も全部自分でやっているし、料理もきちんと作っています。やればできます。そういうことで、2年生にも少し聞いてみます。

生徒5

私は、25歳くらいまでに結婚して、育児のできる男性を探します。

生徒6

やっぱり1人でやるのは大変だと思うので、いろいろ分担してやってくれる人がいいと思います。

発言者5

男性の協力が必要だと思っていたので、家事を協力していきたいと思っています。



知事

ありがとう。ところで、将来の夢は何ですか。

発言者5

将来は音楽の専門学校に行って、歌手を目指します。

知事

いいね。

司会

他に聞きたいことはありますか。

発言者5

将来の夢に向けて頑張りたいと思います。

司会

それでは、最後の内容は、「青森県の雇用対策と起業について」です。お願いします。

発言者 6

私は、青森県の雇用対策と起業について調べました。その理由は、求人倍率が低い、就職する場がないなどの暗いニュースが取り上げられたりしていますが、嘆いているばかりではなくて、青森県の強みを活かした雇用対策が必要なのではないかと考えたからです。

青森県には特色のある農産物がたくさんあり、これらを利用した商品の開発に取り組むことで、新たな雇用の創出にもつながると考えます。私のように考える人は、青森県にもたくさんいると思います。商品開発にはたくさんの費用がかかりますが、若者の起業を応援するような取組はあるのでしょうか。もしよろしければお答えくださるとありがたいです。

知事

私と考えが同じですね。握手しましょう。

雇用のことをよく聞いてくれました。有効求人倍率という、100人働きたいとしたらどのくらい仕事があるかという指標があります。知事になった時は、0.29でした。100人で仕事が29人分しかないという状態です。それが今、0.80まで伸びました。それでも低いと言われるかもしれませんが、ものすごく苦勞して、企業の誘致と増設を頑張りました。県の職員たちも本当にすごく苦勞して、企業誘致をしました。また、起業創業ということで、青森県内に医療機器関連だとか、健康産業関連だとか、ベンチャーの仕事を起こそうということに一生懸命取り組みました。

その他に、さっきも話しましたが、青森県は原材料の宝庫です。ところが、それを全部都会に素材として出しているというのが、青森県でした。そんなことではいけないということで、「青森県6次産業化サポートセンター」というものを作り、人材を持っている人、機械を持っている人、加工技術を持っている人、販売力を持っている人を組み合わせて、6次産業化ということをどんどん進めています。農林水産業の分野は、我々にとって一番大事だと思っています。

もちろん、企業誘致、起業創業も大事ですが、青森県の人たちが昔から得意な分野を青森県の産業にしようということを進めています。地域経営体と言いますが、生産、加工から流通までを、どんどん伸ばしていこうということを県の事業として進めています。この地域経営体は、先ほどの話にあった地域のお祭りを守ることにもつながります。今質問していただいたように、アグリの分野での6次産業化ということを青森県が伸ばせる最大のものだと思って続けていました。それでは、農林水産部から補足をお願いします。

農林水産部総合販売戦略課職員

先ほど知事が言いましたけれども、県内を回って歩くと、加工業者が材料を買う際に、農家から買うのではなく、市場から買っていたというような状況がまだたくさんあります。ということは、生産者と加工業者が一緒にやると、お互いに儲けて事業を増やしていくことができます。そしてそれを県が一生懸命売ってあげるというようなことを含めて一生懸命やっています。

この取組を進めるために県民局ごとに相談窓口を設けています。それから月1回、各県民局で専門家を呼んで相談会をやっています。食産業というのは、皆さんのアイディアで

いろんなものが出てくると思いますので、頑張ってくださいと思います。

知事

食産業の青森ということを一生懸命伸ばしたいと思っています。実績が出ていますが、例えば国内の大手スーパーとの取引額も、以前は70億くらいだったのが、300億まで伸びました。海外への輸出も150トンまで増えてきました。販路開拓と商談システムを作って、確実に食産業を支えていくという取組を県として進めています。ところで、将来の夢は何ですか。

発言者6

青森公立大学の経営学部に行って経営について学び、青森に残って経営者になりたいと思っています。

司会

他に聞きたいことは何かありますか。

発言者6

つがる市長に質問ですが、「つが一ちゃん」の足は何でできていると思いますか。

つがる市長

私は知っているのですが、知事さんがどの位「つが一ちゃん」を知っているのか聞いてみましょう。

知事

長芋でしょう。

発言者6

正解です。長芋でできています。私はその長芋がすごく大好物で、生産量も日本一です。このトロロは、長芋は青森県産の長芋を使っていますが、ここで作られたものじゃなくて、福岡県で作られたものです。これは冷凍ですが、冷凍のものではなく、ここの地元で作れるように、常温で保存して、液体を入れたらトロロになるように、フリーズドライ加工ができればもっと身近なものになるのではないかと思います。

知事

ありがとう。うちの県でも作っていると思ったのですが。一応専門家から。

農林水産部総合販売戦略課職員

作っているところは実際にありますが、ちょっと水くさいとか、まだ生のトロロには勝



てないというがあるので、皆さんのアイディアでもっとよくなると思っています。

知事

ということで、フリーズドライシステムがまだ長芋とうまくマッチしないらしいですが、県内でも作っている業者さんがいます。もっと技術水準が上がるように頑張ります。

司会

知事さん、ありがとうございました。

多岐にわたるジャンルと、青森県の課題について把握することで青森県の未来を変えるには、私たち自身が幸せとなって、考えていかなければならないということが分かりました。

本日は、三村知事と青森県の未来について直接お話することができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。できれば最後に知事と一緒に、「青森県基本計画未来を変える挑戦」のキャッチコピーである「チャンス、チャレンジ、チェンジ」のかけ声を全校生徒でかけて終わりたいのですが、三村知事よろしいでしょうか。

知事・全校生徒

「チャンス！、チャレンジ！、チェンジ！」

【知事所感】

木造高校の生徒諸君、今日は楽しかった。ありがとう。未来はここにあると話をしていたしましたが、発言者だけではなく、皆がすごく熱心に話を聞いてくれ、色々なことに答えてくれました。高校生は、人生で一番いい時期だと思います。一番楽しい時期だと思います。是非この素晴らしい時間、素晴らしい時代を、それぞれ大切に、将来に向けて自分の生き方ということをしっかと見つけてください。探してください。探したらもう若いんだから、まっしぐら、走れ、ということで、一言だけお話をさせていただきます。今日は本当にありがとうございました。

